

農山漁村地域自主戦略整備計画 事前評価調書

評価日(平成24年9月28日)

計画の名称	雄平地域草地畜産基盤整備計画		
計画策定主体	秋田県	対象市町村	横手市、羽後町、東成瀬村
計画の期間	平成24年度～平成26年度(3年間)		
計画の目標	地域の老朽荒廃化した草地を緊急かつ計画的に整備し、良質粗飼料の増産確保に努めるとともに、確保した粗飼料等をTMRとして供給する体制を整備し、家畜飼養頭数を増やすことにより、中山間地域としての畜産業の生産活動の拡大を図り、経営の安定に資する。		
評価指標	①家畜飼養頭数 [現況] ・肉用牛(繁殖) 410(頭) [目標] ・肉用牛(繁殖) 699(頭) ・肉用牛(肥育) 47(頭) ・肉用牛(肥育) 341(頭) ・乳用牛 661(頭) ・乳用牛 710(頭) ②TMRによる飼料自給の向上 [現況] ・自給飼料率 年間 32.90(%) [目標] ・自給飼料率 年間 75.04(%)		
対象事業	草地畜産基盤整備事業(草地林地総合整備型)		
関連事業	-		

【評価内容】

評価項目	評価細目	項目別評価
(1) 計画の妥当性	①関連計画との整合性 ●A 重点施策との関連性が高い ○B 関連計画との整合性がない 県の全体計画「ふるさと秋田元気創造プラン」や、県が定めた「酪農肉用牛生産近代化計画」において、本県酪農及び肉用牛生産の安定的な発展と消費者から支持される畜産物の安定供給の実現を目指しており、関連性が高い。	●A (すべてA)
	②地域課題に対する目標設定 ●A 地域課題に対する明確な目標が設定されている ○B 地域課題が不明瞭、又は目標が不適切 本県における酪農や肉用牛経営は、穀物価格の高騰や景気の後退等による畜産物価格の低迷などの影響を受け、所得の減少や担い手不足等、厳しい状況に直面していることから、自給飼料基盤に立脚した畜産経営の育成に向けた基盤づくりが課題となっており、本計画はこれらの課題に対し明確な目標を掲げている。	○B (上記以外)
(2) 整備計画の効果・効率性	①関連計画との整合性 ●A 評価指標は目標との関連性が高く、計画の効果が適切に評価可能である ○B 評価指標について目標との関連性が低い、又は計画の効果が適切に評価できない 評価指標は、整備計画の目標、対象事業と整合性が図られている。また、目標数値を明確にした定量的指標としており、中間評価、事後評価が実現可能で適切な指標となっている。	●A (すべてA)
	②対象事業の妥当性 ●A すべての対象事業が目標達成のために効果的な事業である ○B 対象事業が目標達成のための事業として不適切である 計画的な草地の整備改良による自給飼料基盤の確保を目的とする本事業は、目標達成のために効果的である。	○B (上記以外)
(3) 整備計画の実現可能性	①事業執行の環境 ●A 円滑な事業推進体制は整っている ○B 事業推進体制が不十分である 事業主体である(社)秋田県農業公社を中心として、県、市町村、関係団体が連携し円滑な事業推進を図っている。	●A (すべてA)
	②地元の熟度 ●A 対象事業は地元の理解を得たものであり、実施要望が強い ○B 事業推進体制が不十分である 対象事業地区は、事業への理解のもと合意形成が図られており、地元の気運も高く、着実な事業実施が期待されている。	○B (上記以外)
総合評価	●A 計画の妥当性が高い(すべて「A」の場合) ○B 計画の見直しが必要(1項目でも「B」の場合) 検討の結果、目標の妥当性、整備計画の効果・効率性、整備計画の実現可能性のいずれについてもA評価であり、計画の妥当性が高いと評価される。	